

コロナ禍のただ中で

新型^{しんがた}コロナウイルスのことが話題^{わだい}にのぼり^だ出したのは、昨年^{さくねん}の1月頃^{がつごろ}のことです。はじめはその正体^{しょうたい}がよくわからず、クルーズ船^{せん}で感染者^{かんせんしゃ}のクラスターが発生^{はっせい}したニュースを聞いたあたりから、何だか^{なん}恐ろしい^{おそろしい}感染症^{かんせんしょう}を引き起^ひこすウイルスが持ちこまれたもの^{おも}だと思^{おも}いました。

感染^{かんせん}したら重症化^{じゅうしやうか}するリスクをかかえた利用者^{りようしゃ}さんが多^{おほ}いたため感染対策^{かんせんたいさく}を今^{いま}まで以上^{いじよ}に徹底^{てってい}することと、日常生活^{にちじょうせいかつ}でも職員^{しよくいん}、利用者^{りようしゃ}さん、そのご家族^{かぞくみなさま}皆様^{みなさま}にお願い^{ねが}いし、外出^{がいしゅつ}も控^{ひか}えてもらい極^{きよくりよく}力^{ちから}ウイルスを持ちこ^こまさない、そんな思^{おも}いでこの一年^{ひとねん}を過^すごしてききました。

また、日中活動^{にっちゅうかつどう}も十分^{じゅうぶん}換気^{かんき}し、パーティーション^{せっち}の設置^{おくり}や屋外活動^{おくがいかつどう}を取り入^とれ、密^{みつ}を避^さける工夫^{くふう}を致^{いた}しました。アルコールも医療用^{いりようよう}のものを購^{こう}入^{にゅう}し、送迎^{そうげい}後の車^{くるま}や、施設内^{しせつない}の消毒^{しょうどく}も徹底^{てってい}して行^{おこな}いました。

感染拡大^{かんせんかくだい}のニュースを聞^きいて、「これだけ感染^{かんせん}が拡大^{かくだい}してきたら、いつ陽性者^{ようせいしゃ}がでてもおかしくない状^{じょうきよう}況^きやから気^きをつけんらんね。」と言^いいつつも、2020年度^{ねんど}は、まだニュースの中^{なか}のでき事^{ごと}でした。ところが、今年度^{こんねんど}に入り、4月18日^{がつ}（日^{にち}）未明^{みめい}、前々日^{ぜんぜんじつ}から発熱^{はつねつ}していた利用者^{りようしゃ}の一人^{ひとり}がPCR検査^{けんさ}の結果^{けつかけ}陽性^{ようせい}と判明^{はんめい}したという連絡^{れんらく}を受けてから、ニュースの中^{なか}の世界^{せかい}が現実^{げんじつ}のものとして、目の前^めに立ち現^まえられました。

その方^{かた}は日中生活介護^{にっちゅうせいのかうご}とグループホーム^{りよう}の利用^{りよう}をされている方^{かた}です。感染^{かんせん}したことが分^わかった方^{かた}を入院^{にゅういん}させてほしいと思^{おも}いましたが、発熱^{はつねつ}と咳^{せき}ぐらいでは入院^{にゅういん}させてもらえませんでした。せめて、他^{ほか}の方^{かた}と隔離^{かくり}するために、府営住宅^{ふえいじゅうたく}のグループホーム^{いっしつ}の一室^{いっしつ}を空^あけて、そこに移動^{いどう}したいと思^{おも}いましたが、保健所^{ほけんしょ}からは「移動^{いどう}することはお勧め^{すす}できません。法人^{ほうじん}の責任^{せきにん}でなさるならどうぞ」と言^いわれ、隔離^{かくり}することもできませんでした。しきりをすると5人と5人に分^わかれる形^{かたち}の10人^{にん}のグループホーム^{なか}の中で発生^{はっせい}したことです。保健所^{ほけんしょ}の指導^{しどう}でゾーン分け^{わけ}を実施^{じっし}しましたが、発症^{はっしょう}二日前^{ふつかまえ}から強い感染^{つよ}力^{かんせんりよく}を持つコロナウイルス^ものこと、いくら感染^{かんせん}対策^{たいさく}に気^きをつけていても、24時間^{じかん}起居^{ききよ}を共にするグループホーム^{とも}で完全^{かんぜん}に感染^{かんせん}を防^ふぐことはむずかしいです。

はじめ陰性^{いんせい}だった人^{ひと}も、数日^{すうじつご}後に咳^{せき}症状^{しょうじょう}が出て、発熱^{はつねつ}し、再検査^{さいけんさ}すると陽性^{ようせい}と判明^{はんめい}。それが数日間^{すうじつかんかく}隔^{ふたり}で2人^{さんにん}、3人^ふ増えていきました。最終^{さいしゅう}的には、グループホーム^{りようしゃ}の利用者^{りようしゃ}さん10名^{めいじゅう}中^{めい}8名^{かんせん}が感染^{しえん}、支援者^{しえんしゃ}側^{がわ}は職員^{しよくいん}1名^{めい}と世話^{せわ}人^{にん}2名^{めい}が感染^{かんせん}しました。

そして、利用者さん2名が亡くなるという結果になってしまいました。体調が悪化し救急車が来ても「入院先が見つからないので、様子観察しておいてください」の繰り返しで、何度目かにやっと入院できた時には、肺がかなり悪くなっていて助からなかったのです。

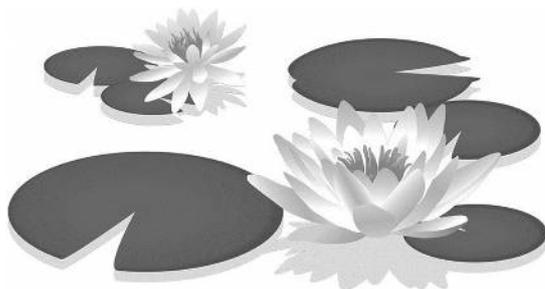
一年前、コロナの問題が起こった時に、国（政府）が本気で国民の生命を守ることに向き合ってくれていたら、そして専門家の意見に耳を傾けて、きちんとした医療体制を整えようとしてくれていたら、こんなひどい医療崩壊はおこらなかったはずですよ。かえすがえすも悔しい思いでいっぱいです。

二人の利用者の方を亡くしたことで他の利用者の方やそのご家族、職員にも心の傷を残すことになってしまいました。今後はそのことにも向き合っていかなければならないとおもっています。

ただ、救いに思うことは、グループホームに入り、陽性者の支援に当たってくれた職員2名と世話人4名が長期間献身的に対応してくれたことです。自身も感染の不安と闘いながら、次々と陽性者が増えていき、状態が悪くなっても救急要請をしても何もしてもらえず、どんどん悪化していく利用者さんを見ていることしかできない現場での勤務は、精神的にも肉体的にもとても苛酷なものだったと思います。

私たちがお願いしたのでしかたなく応じてくれているところもあるかもしれないなあと勝手に思っていたのですが、後で聞いてみると、職員も世話人さんも長年支援してくれているので利用者さんのことをわが子のように思い、心配でたまらないという思いです。入ってくれていたそうです。その気持ちがありがたく、感謝してもしきれないくらいです。

とりあえず今回大きな犠牲を払ってではありましたが一応終息しましたが、コロナはまだまだ終わっていません。今後に向けても、職員一丸となってがんばっていきたいと思いますので、今後ともご支援よろしくお願いいたします。



しゃかいふくしほうじん かい
社会福祉法人ポポロの会
りじちよう ひわしたし てるこ
理事長 樋渡 輝子